

「ぼ〜れぼ〜れ 10月号」福井県版特別号

福井全研ニュース第1号

発行日 平成29年10月25日
編集・発行 公益社団法人認知症の人と家族の会福井県支部
事務局 910-0017 福井市文京2-9-1 嶺北認知症疾患医療センター
TEL: 0776-28-2929 FAX: 0776-63-6756
E-mail monowasure@fmatsubara.com

故郷の風景 No18「JR 福井駅前」



恐竜と共に皆様のお越しをお待ちしています

2018 全国支部代表者会議

2018年10月27日(土)

ザ・グランユアースフクイ (ホテルフジタ福井)

第34回全国研究集会 in 福井

2018年10月28日(日)

フェニックスプラザ

この会報は、福井県共同募金会の助成金で発行しています

2018 年度家族の会全国研究集会 福井県で開催の 夢とその道のり (要約)



「家族の会」福井県支部世話人代表 松原 六郎

はじめに

それまで、こんなこと（注:福井で全研開催）は考えもしませんでした。でも、去年、2015 年の全国研究集会で栃木県の宇都宮市に行き、会場で各県のいろいろな報告を聞いていた時、ふと「全研を福井県で開催したい」と思ったのです。

もしかすると自分がずっと以前から描いていた夢が、この全国集会を開催することで叶うのではないかと思ったのです。

全研開催にかける夢 2 つの夢

- ★1 つは、認知症の方自身やご家族を県民全体で支える市民運動を起こしたいということなのです。
- ★2 つ目は、この会がもっと大きく存在感を増し、「ご本人やご家族がもっと意見や希望が言えるようになりたい」ということです。
- ★この 2 つの夢を 2025 年、団塊の世代が後期高齢者になるまでに実現させたいのです。

夢に向かっての第一歩

今から 2 年半後、2018 年秋に福井県において、その第一歩を踏み出そうではありませんか。もちろん、会を開けば自動的に 2 つの夢が叶うとは思っていません。

ポイントは 2 つあると思います。

1 つは準備を全員参加で行うことです。

もうひとつは思いっきり「福井らしさ」を出すことです。

全員参加は、もちろん核はわれわれ会員ですが、行政、医療介護福祉専門家、市民、子どもたち、元気老人、障がい者、皆が同じ立場で手作りの会を作ることが大切です。

全員参加は、我々の存在を知っていただく良い機会ですし、準備に携わるということはその印象をさらに深めることだと思います。

「福井らしさ」は皆で頭を絞りましょう。

全研開催は、市民運動の盛り上がりが高いから開催するのではなく、むしろ、「盛り上がり」は全研の準備から始まるのではないかと考えています。

2015.11 栃木大会を受けて松原代表から「福井で全研開催」が提案され世話人会で共通理解そして意思統一を行い、**2016.3** 本部理事会に意思表示、正式決定。

2017. 3 研修部会で松原代表から夢を叶えるため「認知症の人と家族を支えるための地域力」ということが提案された。

2017. 5 支部総会で研究集会テーマを「紡ぐ 地域力を活かした本人と家族が主役の地域づくり」で意思統一し、**2017.7** 本部理事会に提案、承認を受ける。

2017.7 北陸ブロック会議で経過報告、協力依頼

全国の皆様と話し合いたいこと考え合いたいこと

私たちが目指すもの

認知症の方も介護する人も
人としての尊厳が守られ夢と希望のある生活



研究集会テーマ

つむぐ
「**紡ぐ**」地域力を活かし
本人と家族が主役の地域づくり



pixta.jp - 4633093

ご本人認知症の方
自身やご家族を県
民全体で支える
市民運動

認知症
サポーター

偏見や差別の
解消

地域力

2025
問題

共生社会

私たちの目指すものに迫るためのキーワードと
考えました。
これらのこととご本人とご家族、そして地域
社会の多くの方が「たて糸」「よこ糸」となり美
しい布を織るためみんなで話し合い、
考え合って頂きたいと思います。

学校教育

孤立感
不安感



介護独楽吟

夢と希望

理解と支援

「家の恥を外に出したらあかんで」と妻 妻は認知症。妻の気持ちを思うと・・・

このようなタイトルの「つどいの報告」が福井県版6月号にありました。

「つどい」に出かけるご主人に奥さんが「家の恥を出したらあかんで」と声をかけて見送られたよです。

この時のつどいの報告を読んでの感想を書かせてもらいます。

◆「家の恥を外に出したらあかんで」と妻

認知症の奥さんは、自分が認知症であることを「家の恥」と考えておられるようです。

奥さんの気持ちも分からないこともありません。

というのは、全介助になった老母のオムツを入れ半透明の市指定のゴミ袋をゴミ集積所に持っていくことに最初は、すごく抵抗感がありました。

中が見えないように黒色のゴミ袋をほしいと思ったりしました。

しかし、赤ちゃんのオムツを持っていく時は全く抵抗感はありませんでした。

この違いは何処にあるのか？

認知症に対する自分自身の偏見だと思います。

そして自分自身の偏見で自分を苦しめていたのではないかと思います。

◆このような自分自身の偏見や差別で自分を苦しめていることが他にもいろいろあります。

マーケットで食品を買うことです。母親が認知症になるまでは買い物をしたことがありませんでした。はじめてマーケットで買い物をするまでは相当勇気がいりました。

しかし、回数を重ねるにつれ男性の買い物客もいることが分かり楽な気持ちで買い物ができるようになりました。

◆「認知症の人は徘徊があるから・・・」

老母が大腿骨骨折そして手の骨折。退院後モリハビリに週3回つれていきました。

その最後の日に担当の理学療法士さんから「認知症の人は徘徊があるから歩けるようにするには私は消極的にしました」と言われました。

「認知症＝徘徊」という偏見。

「認知症の人は歩けなくてもよい」という差別感。信じられないような言葉に強い怒りを感じました。

人権無視も甚だしい発言でした。

認知症の人に対する理解も世間一般に広まっているとはいうもののこのような考えでいる人もいるのかと衝撃を受けました。

昨年の「やまゆり学園」の痛ましい事件の加害者にも通じる考えかとも思います。

このような事は表に出てこないだけで数多くあるのではないかと思うと恐ろしくなります。

◆「偏見や差別観をなくすために」

福井県版の「介護生活」や「介護相談」には、このような問題がほとんど取り上げられたことはありませんでした。。

10年ほど前「認知症のご主人はバレーボールの練習に連れてこないで」という投稿があったくらいかと記憶しています。

「偏見や差別をなくすために」は、介護家族がくやしい思いや悲しい思いを抱え込まず「表」に出すことが必要と考えています。

そして、認知症の人に対する偏見や差別の実態を知ることが必要と思います。

「偏見や差別」をなくすため身近なところで起きた事例を福井県版に出してもらいたいと思います。

◆「妻の気持ちを思うと・・・」

ご主人は、認知症と診断された奥さんのことは、奥さんの気持ちも察して特別に周囲の人には話をされていないようです。

しかし、つどいの場では「家の中の全て」を話しています。

これはつどいの場に集まってくる人は自分のことをよく理解してくれる安堵感があるからだと思います。

「つどいの場」が地域全体に広まってくれることも願っています。

グリーンケア「地蔵盆に思うこと」

◆私の住む地区にはちょっと変わったお地蔵さんがいます。

「油かけ地蔵さん」といい、その名の通り、長年、頭から油をかけられ真っ黒でべたべたです。

でも、お参りすれば、受験はスルッと通り、お産もスルッと安産です

(※わたし個人の主観ですが・・・)

◆毎年、8月23日の地蔵盆の夕方にはこのお地蔵さんの前にござを敷き並べ、町内のおばちゃんたちが鉦をたたきながらご詠歌を唱えます。

子供のころには夕暮れどきのその調べが、非常にもの悲しく、厳かに聞こえました。そして、ご詠歌が終わると、お供えのお菓子を袋にいっぱいいただけるので、子供たちにとっては年に一度のお楽しみでもありました。

私は、子供のころの記憶しかありませんが、母も元気なころはご詠歌を唱えていたのだと思います。

◆昨年の地蔵盆にふと、車椅子で母を地蔵盆に連れ出そうと思い立ちました。

しかし、仕事で遅くなってしまい、急いで帰宅したのですが、すでにご詠歌は終わり、さらにお菓子も配り終わっていました。

残っていたおばちゃんたちは母に「あら、きんちゃんやなあ」と声をかけてくださいました。母は知らん顔。ご詠歌でも聞けば何か反応するかな、と思って出かけてきたのですが、皆さんに「また、来年」とご挨拶をして帰りました。しかし内心、もう来年はないかな、という予感がありました。

◆もうそろそろ、母の一周忌の予定をしなければいけない時期なのですが、いまだに、母の死を納得できていないというか、引きずっている気がします。

今年の地蔵盆の日は、なんで、去年、もっと早く仕事を切り上げなかったのだろう、と思いました。

たぶん、傍から見たらもうすっかり母の死を

あきらめて、乗り越えているように見えると思います。しかし、内面ではくすぶっているものがあります。

母の人生をふりかえり、母が生きた意味を確認する、という作業ができていなかったのではなかったかと思います。

◆そういえば、お葬式の時にかざるため元気なころの写真を選んだり、棺の中に入れる手紙を書いたり、そういったことのひとつひとつが母を見送るための儀式であったと、今更ながら思われます。

大切な人を亡くされた方々は、どうやって悲嘆を乗り越えたのでしょうか。

私と同じように、ずっとではなくでも、

「こうしていたほうがよかったのではないか」「もっとこうしてあげたらよかった」と時々思い出しては、悲嘆にくれる人が多いのではないのでしょうか。

そういったお話を伺い、また語ることが、自分も悲嘆を乗り越えるヒントになるように思います。介護は見送ったから終わりではないと思います。

「つどい」や「カフェ」は現在介護中の方ばかりでなく、見送った方々にもぜひ来ていただきたいと思っています。

(文：実母の一周忌を迎える娘 50代)



認知症支援に広がり

地域見守り存在欠かせず

認知症サポーターは、病気に対する正しい知識を身に付け、地域で暮らす患者や家族を支える。全国に約883万人（3月末現在）いて、政府の認知症施策推進総合戦略（新オレンジプラン）の目標800万人を大幅に上回っている。福井県は総人口に対するサポーターの割合が全国最上位。裾野の広がりや地域での活用するか、活動の実効性が課題になっている。

（西脇和宏）

県内サポーター10万人超



子ども向けに高齢者との接し方を伝える紙芝居を披露する認知症サポーターの池田武さん（福井市内）

活動実効性は課題も

フォーカス

福井

focus

人口の73・2%が認知症サポーターになっている若狭町では、小中学校で積極的に養成講座を開いてきた。以前取材した町職員は「3世代同居であれば、高齢者と接する時間が長い子どもたちが認知症の初期症状に気づきやすい」と、早期発見・治療につながる効果を力説した。

視点

高齢化社会の大切な基盤

人口の73・2%が認知症サポーターになっている若狭町では、小中学校で積極的に養成講座を開いてきた。以前取材した町職員は「3世代同居であれば、高齢者と接する時間が長い子どもたちが認知症の初期症状に気づきやすい」と、早期発見・治療につながる効果を力説した。

■2人に1人
 全国キャラバン・メイト連絡協議会のまとめによると、今年3月末現在で福井県内のサポーターと養成講座の講師になるキャラバン・メイトの数は、計10万6650人となり、この1年間に1万5千人以上増えている。県内の総人口に対する割合は13・3%で、熊本県（15・5%）と鳥取県（13・6%）に次いで全国3番目の高さ。65歳以上の高齢者2・1人に1人の割合

で、サポーターがいる計算になる。福井県警によると、2016年に県内で行方不明になった認知症やその疑いがある人は1211人になり、12年からはほぼ倍増している。この間の行方不明者の総数は500人前後で推移しており、認知症関連の割合が高まっている。地域で見守るためには、サポーターの存在が欠かせない。企業や団体ぐるみでサポーター養成に取り組む例が増えている。第一生命保険福井支社（福井市）は8日、同市で養成講座を開き、社員ら計450〜460人が参加する。一挙に500人近くのサポーターが生まれる形だ。

安東秀哲社長は「70〜80代の顧客が増えている。定期的に訪問する中で、顧客に認知症の正しい知識や介護に対する備えを情報発信したい。訪問時に、ちょっとした変化に気付いたり、徘徊に注意したりできれば、社員にとって財産になる」と話す。

■できる範囲で
 県や市町、企業、団体などが開く1時間から1時間半の講座を受講すれば、誰でもサポーターになれる。政府は、地域で認知症の人やその家族を「できる範囲で」手助けする役割と位置付けており、受講後の活動は各自に委ねられている。

池田武さん（71）＝福井市＝は5年ほど前にサポーターになった。母親を30年近く自宅で介護し、同じ立場の人を少しでも手伝いたいと養成講座を受講した。「地域や知り合いに気になる人がいても、家族が支援を求めなければ関わりにくい。認知症の広報が必

要なのか、具体的な支援が求められているのか戸惑った」と話す。

現在は男性介護者の集いに定期的に参加し、他の参加者の悩みを聞き、自分の経験を踏まえてアドバイスしている。子ども向けの紙芝居を作り、小学校などで高齢者との接し方を伝える活動も始めた。右手首にサポーターを示すオレンジ色のリングを着けている。「県内には10万人以上のサポーターがいるのに、リングを着けた人あまり見ない。認知症の人の家族は、まちでリングを見るだけで『気持ち分かってくれる人がいる』と和む場合もある」。できるだけリングを着け、高齢者に優しく声を掛ける。そんなところから具体的に行動するサポーターが1人でも増えてほしいと願っている。

があり、サポーターの意義をさらに広める必要がある。サポーターになった後の活動を担保する仕組みも大切だ。一般市民のサポーターが地域で活動するには、民生委員や医療、介護の専門職との連携が欠かせない。連携が密になれば見守りの充実と早期発見につながる。予防法や治療法など最新の情報を学び直す機会も増えるはずだ。

（西脇）

故郷の風景No14「橘曙寛独楽吟の世界」



たのしみはまれに魚煮て児等皆が
うましうましといひて食ふ時

幕末の福井の歌人・国学者の橘曙寛は清貧に甘んじ家族との生活の中に喜びや楽しみを見出し「たのしみは」で始まり「する時」で終わる歌 52 首を読み独楽吟として残されています。

1994年6月13日、訪米された天皇后陛下の歓迎式典でクリントン大統領は独楽吟の一首

たのしみは朝おきいでて昨日(きのふ)まで無(な)かりし花の咲ける見る時

を引用して歓迎スピーチをされたことで一気に有名になり、また、見直されるようになりました。

国際会議福井県支部ポスターの一節「介護に苦しみ、悩む日々の生活の中にも楽しみを見出したい」という願いは、独楽吟の世界に通じるものであり橘曙寛記念館に行ってきました。

そして、福井生まれの人形作家田中美知千氏の独楽吟人形(写真上)を見ているうちに自然と介護独楽吟?が浮かんできました。(写真は福井市橘曙寛記念文学館パンフレットより)

福井全研の各県支部ポスターのテーマ候補として「介護独楽吟」が上がっています

「介護独楽吟」

たのしみはその日の業をなし終えて

月の明かりで缶ビール飲むとき

男性介護者六十五才

たのしみは聞いて聞かせてつどいの場

この日だけはと参加するとき

介護初心者 六十才女性

たのしみは我が家で育てし食材で

レシピ片手に料理するとき

男性介護者六十二才

たのしみは仲間と共に湯につかり

のんびりのびのび語り合うとき

在宅介護者 六十才女性

たのしみは月一回のお泊り日

あれもこれもと計画するとき

在宅介護者 六十才女性



福井へのアクセス

東日本から福井へ

- 東海道新幹線米原駅で特急「しらさぎ」に乗換え 約 60 分程度
- 東海道新幹線名古屋駅で特急「しらさぎ」に乗換え 約 130 分程度
- 北陸新幹線金沢駅で特急「サンダーバード」「しらさぎ」に乗換え 約 50 分程度

西日本から福井へ

- 東海道新幹線京都駅で特急「サンダーバード」に乗換え 約 80 分程度
- 東海道新幹線米原駅で特急「しらさぎ」に乗換え 約 60 分程度

***列車運行時間により停車駅が異なり福井駅までの所要時間が異なります。**

空路 羽田空港 → 小松空港 → 連絡バス → 福井駅 約 2 時間

第 34 回全国研究集会 in 福井 会場 福井市「フェニックスプラザ」

福井県福井市田原 1 丁目 13 番 6 号 福井駅から 1.8Km 路面電車で約 10 分

福井市は、昭和 20 年福井空襲、昭和 23 年福井大震災、その 1 カ月後に福井水害と短期間にたび重なる災害を受けました。

これらの災禍を福井市民は乗り越え、不死鳥(フェニックス)の如く福井市を蘇らせました。幾多の苦難に負けず夢と希望を持って福井の復興に尽くされた当時の福井市の方々のエネルギーは、今、苦難の介護生活をしている私たちを勇気づけるものがあると思います。

また、国際会議の開会式で高見代表は「私は福井県の生まれ。福井震災で両親を亡くしたことが、私を家族の会につながることになった」と挨拶をされました。

このように家族の会にもつながりのある「フェニックス」と名付けられた会場で全国研究集会が開かれることは、会場県支部として誠に意義深いものを感じます。

来秋 10 月 28 日、全国の皆さんの力でこの会場を埋め尽くしてもらいたいと願っています。

